

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部 大阪証券取引所 市場第2部

【ご注意】

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シヅキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807



証券コード 6994
東証二部・大証二部

第84期 報告書

株主通信

平成23年4月1日～平成24年3月31日

メッセージ

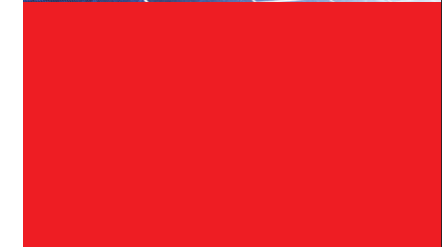
飛躍への誓いを果たし、次のステージへ。

「変える」に挑む。

特集：シヅキの強み

変化に対応できるシヅキの秘密は幅広い商品群にあり！

「幅広い」だから「力強い」シヅキの商品群



株式会社 指月電機製作所

<http://www.shizuki.co.jp/>

飛躍への誓いを果たし、
次のステージへ。
これまでのシヅキをベースに
「変える」に挑む。

AIM 2013
VISION

コンデンサ・モジュール、クリーンエネルギー、
ビジュアルメッセージ事業を柱に、
機器単体からシステムまでの
トータル・サプライヤーとして、
世界のリーディングカンパニーを目指す。

環境・省エネ・
電力品質

ますます巨大化する
パワーエレクトロニクス市場

「シムス」をもちに
飛躍を目指すAIM2013

「シムス」
SHIZUKI
Integrated
Management
System

厳しい状況下でも増収増益を達成。
不況に強いシヅキを市場に改めてアピール。

はじめに84期を振り返って、その内容についてご報告いたします。東日本大震災の復興に関して当社も尽力し、主に電力不足の問題から注目を集める電力効率の分野で貢献しております。一方で国内は景気の回復感乏しく、また海外に目を向けても中国・アジアの成長鈍化など厳しい状況が続いています。しかし、さまざまなマイナス要因を予測して83期後半に設定した経営計画が堅実なものであったため、数字の上では増収増益となりました。慢性的なデフレ基調で多くの企業が苦勞されている中、特に営業利益で好成績を収められたのは、材料費の値上がり感が落ち着き始めたこと、また、従来から取り組み続けてきた「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」開発、生産、販売することの徹底を改めて図ったからです。

「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」と言っても、一方的に仕様や条件を押し付ける自分たち都合のものではなく、常に相手の立場を考えたお客さま都合のものでなければなりません。メー

カーというものは往々にしてプロダクトアウトの考えに陥りがちですが、その点シヅキにはここ10年にわたる地道な取り組みの結果、お客さまのニーズに合わせるマーケットインの考えが浸透しています。

経営効率の向上を目指す経営の基本方針。
改めてその地道な取り組みの重要性を認識。

その地道な取り組みのベースに位置するものが、シヅキ総合マネジメントシステム「JIS(Sシムス)」です。「JIS(S)」はお客さま、株主の皆さま、そして社員の満足を満たすため、常に品質の確保と合理性を追求し、環境の変化に機敏に適應できる企業体質をつくるという考え方です。この「JIS(S)」を深く理解し、指月電機・秋田指月・岡山指月・九州指月・指月テクノサービス・アメリカン指月・上海指月・タイ指月の指月電機グループ全社員が常に切磋琢磨し、人材育成も含め、経営効率の向上に努めてきたからこそ現在のシヅキがあるのです。

今後も慢心することなく、トップ自らが先頭に立ち、「JIS(S)」に基づいた考働を実践しつづけてまいります。

シヅキが目指す2013年度のあるべき姿

全売上高	総資産経常利益率(ROA)	営業利益	一株当たり利益(EPS)
270億円	14%	32億円	61円

85期シツキの新たなテーマは「変える」。
能動的な物づくりを目指し意識改革に挑む。

以上のように、84期の増収増益の理由は、一つは目標値が堅実なものであったこと、そしてもう一つは「JIS」を中心とした日々の努力が実を結んだことが大きかったと言えます。84期の下期にさらなる躍進を誓いましたが、その誓いは達成できたと考えています。そこで今期のテーマを「変える」としました。

現状の全売上高が213億円。ここからAIM2013で掲げている最終目標を達成するためには、これまでのシツキをベースにしながらかつ上積みを目指さなければなりません。

そのために今まで以上に注力したいのが提案・ソリューション型の物づくりです。お客さまのご要望に的確にお応えし、既存の商品をカスタマイズして時間どおりにお届けする物づくりに関して、シツキは群を抜いていると自負していますが、さらにスマートグリッドや再生可能エネルギーなど注目されている市場へ

AIM2013を目指した経営戦略

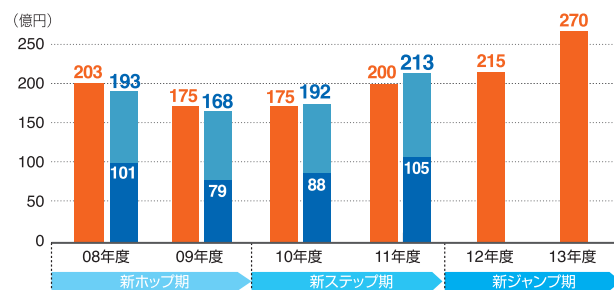
- ▶ 対応型から提案・ソリューション型企業への革新
- ▶ 重点事業領域(ドメイン)の拡大
- ▶ 事業活動の最適化(JISの展開)
- ▶ 共育と訓練(指月PPVSの展開)
- ▶ 固有技術のプロ集団化(研究・開発の環境整備)

自ら新商品で切り込んでいければ次のステージが見えてくると思います。そのためには全社員がこれまでの概念を取り払って仕事に取り組める環境を整えたいと考えています。

つまり「変える」とは全社員の意識改革も含めた大きなテーマなのです。今やシツキブランドの代名詞となっている電気二重層コンデンサ「FARADCAP」のようなヒット商品を生み出すべく尽力します。

株主の皆様方には引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

売上高目標



経営指標

項目	実績			計画	
	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
営業利益 (億円)	13.0	15.9	19.6	17.4	32.4
総資産経常利益率 (ROA) (%)	7.2	8.1	10.3	8.7	14.1
一株当り利益 (EPS) (円)	32.8	33.9	41.2	35.0	60.9

社長交代のご挨拶

2012年3月1日開催の取締役会において、代表執行役の異動について決議いたしましたことを謹んでご報告申し上げます。これにより2012年4月1日から旧代表執行役社長の梶川 泰彦が代表執行役となり、旧専務執行役の伊藤 薫が代表執行役社長に就任いたしました。改めて両名よりご挨拶させていただきます。

この度、代表執行役社長を退任し、代表執行役に就任いたしました。これによりシツキは伊藤社長のもと新たなステージに進むこととなります。退任はまだ早いのでは、という声も頂戴しておりますが、経営を司る社長は就任期間が長ければ長いほど過去の成功体験に囚われがちです。若い世代に期待を込め、今後、新たな挑戦をするためには、業績も恵まれ、人材もかなり育てている今こそ交代の時であると決意いたしました。

伊藤社長は、私と一緒に長年物づくりに取り組んできた信頼できる人物です。経営の基本理念である社是や考働指針、「JIS」などは変えませんが、それを実現するための手段や手法は「変える」と言われています。これから果敢に挑戦し、時代に機敏に適應するシツキを作り上げてくれるはずですよ。

株主の皆様におかれましては、新しいシツキの船出に、ぜひご期待くださいますようよろしくお願い申し上げます。

代表執行役 梶川 泰彦



この度、代表執行役社長を拝命いたしました伊藤です。今回の株主通信の巻頭でもご紹介しましたとおり、85期のテーマを「変える」としました。しかし、それは「お客さまを大切にする」シツキの物づくり、その基本的な部分を「変える」という意味ではなく、ますます激しくなる環境の変化にタイミングよく考働を「変える」ことを目指しています。

私はシツキに入社以来、生産現場一筋で物づくりへの想いは人一倍強いと自負しています。そうした経験に裏打ちされた「現場目線」を今後は自らの強みとしながら、これまでの手段や手法を「変える」考働力の育成に挑みます。そのプレッシャーは大きいですが、必ずやり遂げなければならないという不退换の決意で取り組む所存です。

これまで代表執行役が指揮し、社員みんなで作り上げてきたシツキをさらなる成長へと導きたいと思っております。株主の皆様にはこれまでと変わらぬご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

代表執行役社長 伊藤 薫



変化に対応できるシツキの秘密は幅広い商品群にあり!

「幅広い」だから「力強い」シツキの商品群

意外な所でキラリと光る。
あらゆる市場に
シツキの商品。

シツキは不況に強い会社だと言われます。では、その秘密はどこにあるのでしょうか？
答えは「電気エネルギーのマネジメント」を基本に、必要とされる市場に必要とされる商品をお届けしていることにあります。そうすると自然に「幅広い市場に商品をお届けしている＝一つの市場が落ち込んで他でカバーできる」という結果につながるのです。今回はその実証として、さまざまな市場でお役に立っている商品群をご紹介します。



「専門部隊」と「R&Dセンター」で叶える「多顧客多品種」

シツキが「電力」や「自動車」「鉄道」「情報」「家電」など幅広い市場に商品をお届けできるのは、それぞれの市場に「専門部隊」が存在し、ニーズをくみ取り、そのニーズを「R&Dセンター」で形にし、生産までつなぐシツキ独自の一貫体制が築き上げられているからです。その一貫体制のもと、各市場において今日も魅力的な商品が次々と誕生しています。

#04 タイのみならずASEAN地域全体の供給拠点として 経済成長を背景に急成長中の 「タイ指月」をご紹介します

インフラや自動車、家電など、 幅広い市場の近代化に貢献しています。

タイ指月は、2007年4月に東南アジア地域の一大生産基地として操業を開始しました。工場はバンコクのバンチャン工業団地にあり、現在約130名の従業員がシツキの物づくりを実践すべく励んでいます。

現在、生産・販売している商品は家電機器用コンデンサと電力用低圧進相コンデンサおよびリアクトルで、当初の狙いどおりタイのみならず東南アジア地域に商品を供給しています。東南アジア地域はGDPの伸びが著しく、工場の新規建設、増設やインフラ設備の投資などで電力の需要が増加しており、電力商品の売上げが伸びています。また、2010年

には力率改善用低圧進相コンデンサの新型機種の生産・販売を開始。操業当初15%ほどだった売上げ比率も、新商品の生産、技術サービスなどの拡販活動により現在は50%以上に達する勢いで伸びています。

また、タイは自動車と家電用エアコンの生産拠点として多くの会社が進出しており、主に日系の各エアコンメーカー様へコンデンサを販売しています。エアコンの市場は全世界規模で需要が増加しており、ますます成長が期待されます。今後もシツキの物づくりの基本である「QCD(Q=品質、C=価格、D=納期)」を徹底し、お客さまの信頼を得ることで、売上げを拡大していきます。

知名度アップと信頼構築のため 展示会やセミナー、工場見学を実施

現在、シツキでは東南アジア地域のお客さまに対して、シツキの知名度を上げるべく展示会やセミナーなどを積極的に開催しています。また、お客さまに工場見学にお越しいただくなどして、信頼の構築に努めています。



展示会



セミナー

◀さすがは“微笑みの国”タイ。みんな最高の笑顔と元気で頑張っています。

用途に合わせて選べるラインアップが好評

タイでも幅広い市場に 幅広い商品をお届けしています

シツキと言えばお客さまに合わせた物づくりを徹底していることで知られていますが、そうした物づくりをタイでも実践しています。日本の仕様・品質をそのままお届けするのではなく、東南アジア地域で求められる仕様・品質に合わせた商品もご用意し、用途に合わせてお客さまに選んでいただけるようにしています。その取り組みが好評で、売上高の大幅アップにつながっています。現地で多くの支持を集めている、タイ指月の商品ラインアップをご覧ください。

なるほど
シツキの
技術力!

家電機器用商品



コンデンサ RSタイプ (中・大容量)

モーター起動用と、力率改善用に使われます。主に、エアコン室外機のコンプレッサ、家庭用ポンプ、洗濯機などに採用されています。



コンデンサ CMEタイプ (小・中容量)

RSタイプと同様に力率改善用に使われます。主に、エアコンのファン、冷蔵庫、換気扇などに採用されています。

電力設備用商品



コンデンサ RG-2タイプ

沢山の電気を使う工場などに、規模に合わせて数台～数十台設置されます。電気の使用状況に合わせて、最適な容量になるようにコンデンサを自動調整します。RG-2タイプは小容量から大容量までを取り揃えて販売しています。



コンデンサ RF-Tタイプ

工場などの受電設備の力率改善用に使われます。RF-TタイプはRG-2タイプの小容量品として販売しています。



リアクトル

受電設備の力率改善用コンデンサを、高調波電流や、コンデンサ開閉時の突入電流から保護するために使われています。

これからも力強い成長が期待される、
タイ指月にご期待ください。

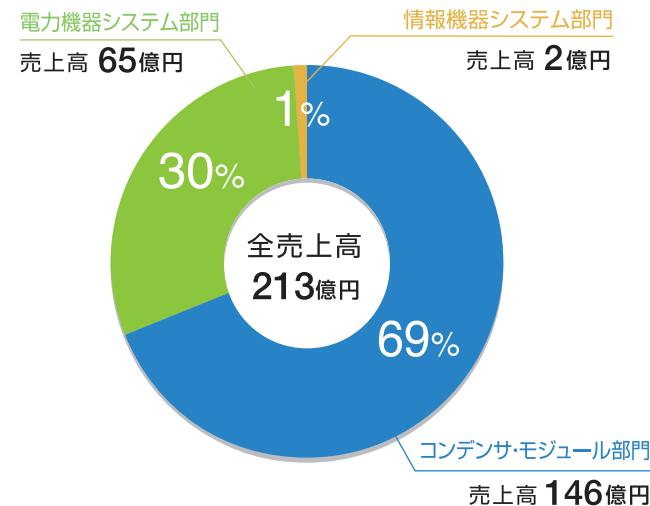
事業概要と展望

当連結会計年度におけるわが国の経済は、昨年3月に発生した東日本大震災を契機とした電力不足や放射能汚染への不安が依然続くなか、原油価格の上昇などによる欧州・米国経済の停滞・不透明感、中国・アジア経済の成長鈍化など厳しい状況が続きました。

このような状況のもと当社グループは、新商品開発、新市場開拓・拡販活動を行い、またJIT(ジャストインタイム)と自動化を推進し、原価低減、品質向上、経費削減を全社一丸となって取り組み、売上高、利益の拡大に努めました。今後も厳しい経済環境が続くと考えますが、環境共生、電力の自由化、新エネルギーの活用、高齢化社会への対処をキーワードに、企業価値の向上を図り、お客様の視点に立ったものづくり、サービスの提供ができる体制をより強固にしていきます。

株主の皆様におかれましては、ますますのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

部門別売上高比率 (2012年3月)



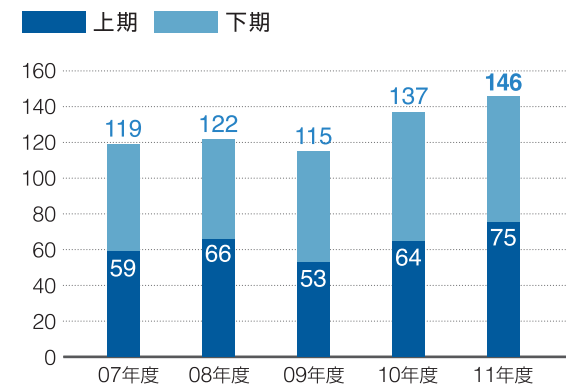
売上高
構成比率
69%

コンデンサ・モジュール部門

世界的な鉄道インフラ整備に対する投資の低迷により、電鉄車両用コンデンサが低調に推移しました。一方、新規事業のEV・HEV用コンデンサが大きく伸長しました。今後は、環境共生、電力の自由化と高効率化、自然(再生可能)エネルギーの有効活用などの動向に伴い、EV・HEV、電鉄車両、新エネルギー発電機器などでのインバータ用フィルムコンデンサおよび蓄電用電気二重層コンデンサの需要はますます拡大するものと予測しております。これらの需要に応え、フィルムコンデンサ、電気二重層コンデンサの開発をさらに進めてまいります。



コンデンサ・モジュール部門売上高 (単位:億円)



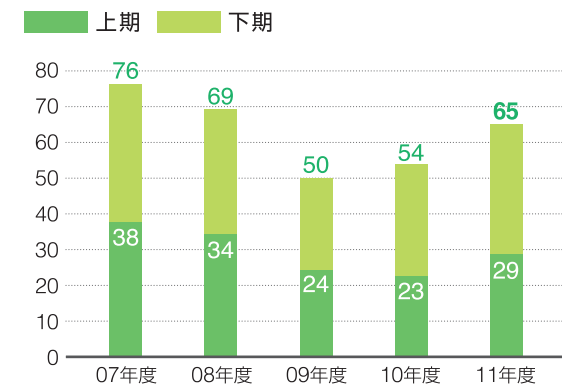
売上高
構成比率
30%

電力機器システム部門

震災後の復旧需要や電力効率・電力品質への関心の高まりから、力率改善装置(進相コンデンサ・リアクトル)、電力品質改善装置(フィルタ装置)が堅調に推移しました。今後、電力機器市場では、高調波・電圧変動・フリッカ・瞬低対策や力率改善などの電力品質・効率改善商品を、鉄道機器市場では、レール電位抑制・軌道短絡防止・高抵抗地絡保護などの安全対策商品を中心に販売増強を図ってまいります。さらに、当社が得意とするパワエレ用コンデンサや電気二重層コンデンサを使用した新エネルギー・省エネ対応などの新商品を開発し、市場に提供してまいります。



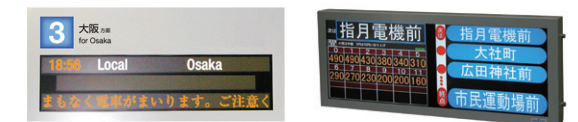
電力機器システム部門売上高 (単位:億円)



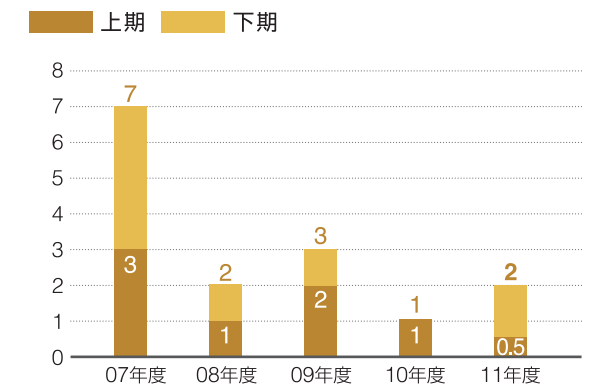
売上高
構成比率
1%

情報機器システム部門

主力商品である「鉄道用表示装置」の売上が増大しました。また、「バス用表示装置」も堅調に推移しました。結果、売上高は前年同期比82.6%の増加となりました。今後は、当社独自の技術によるTFT液晶パネルとフルカラーLED表示デバイス技術を活用し、「バス車内表示装置」、「バス停留所表示装置」、「バスロケーションシステム機器」などの商品ラインアップの充実を図ります。また、継続する鉄道発車標リブレース需要に対しては、多言語表示機能を展開しお客様のニーズに応じてまいります。



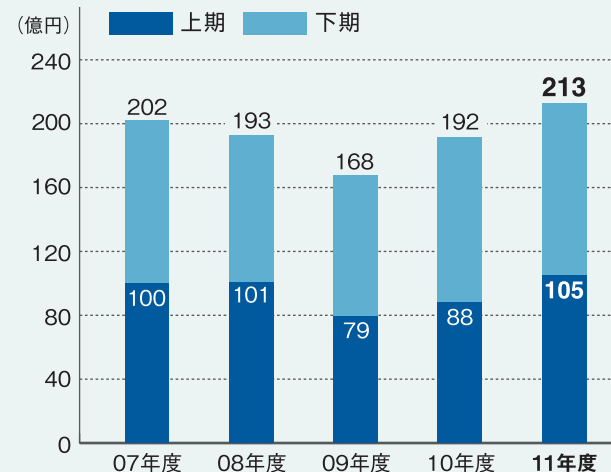
情報機器システム部門売上高 (単位:億円)



財務ハイライト(連結)

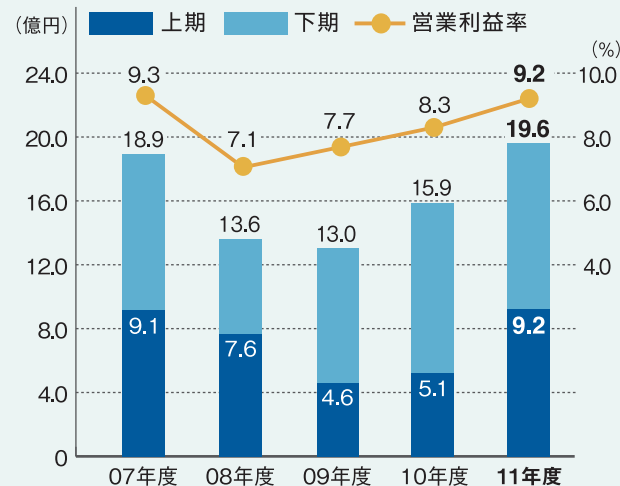
売上高

震災復旧や省エネ需要で電力機器を中心に
対前年比10.8%増収



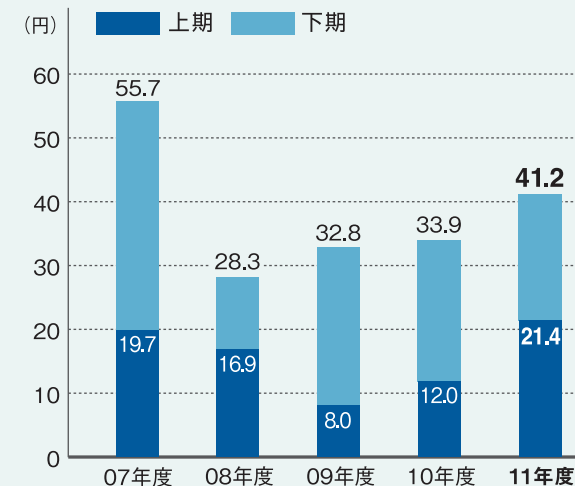
営業利益・営業利益率

原低活動に売上増も寄与し、対前年比23.2%の増益確保



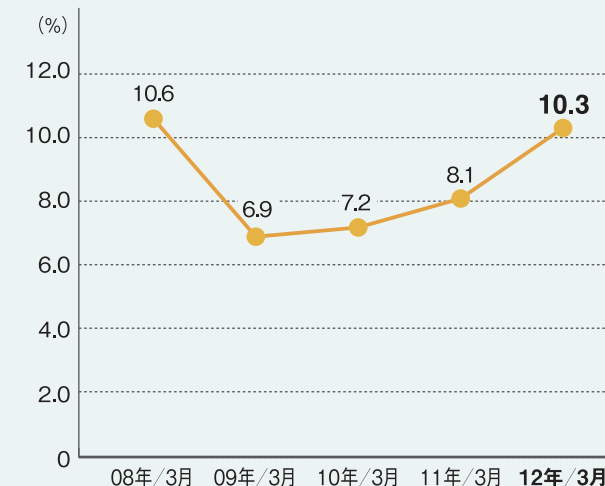
1株当たり利益 (EPS)

安定的な利益確保によるEPSの向上実現



総資産経常利益率 (ROA)

堅実な利益確保によりROA改善

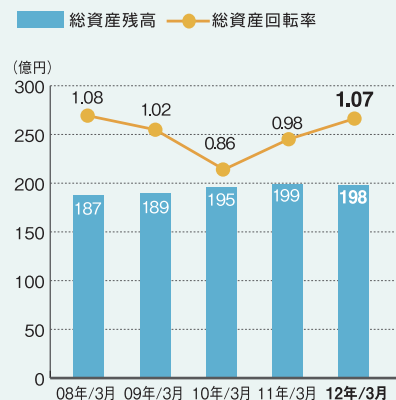


POINT

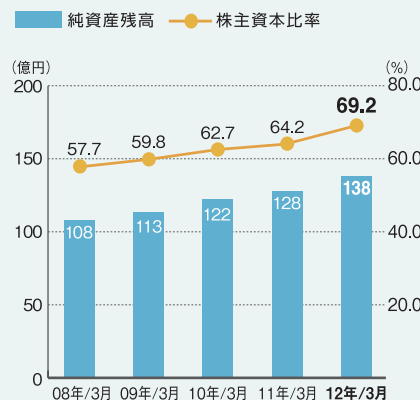
財務体質のさらなる強化により、積極的な設備投資を実現

売上高は、コンデンサ・モジュール部門、電力機器システム部門ともに増収となりました。株主資本比率、有利子負債依存度などの経営指標はさらに改善しており、これを背景に積極的な設備投資を行っております。

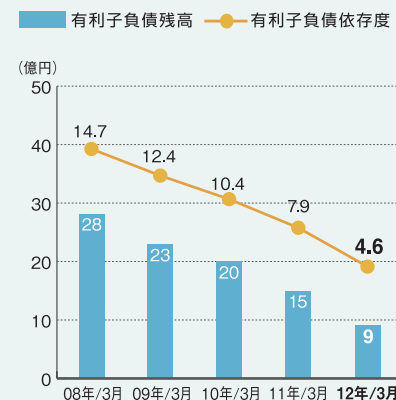
総資産残高・総資産回転率



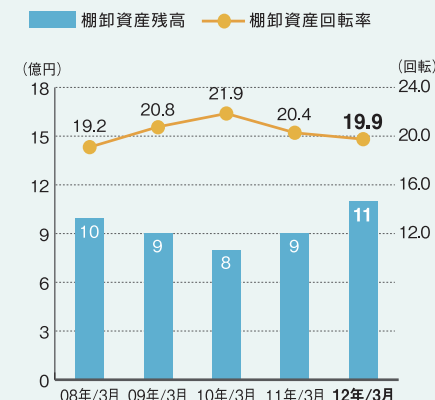
純資産残高・株主資本比率



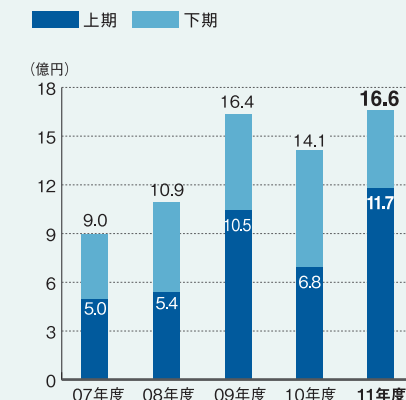
有利子負債残高・有利子負債依存度



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



設備投資額



連結財務諸表

(注) 十万円の位を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期期末 平成23年3月31日現在	第84期期末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,878	8,428
現金及び預金	3,408	2,670
受取手形・売掛金	4,063	4,363
棚卸資産	942	1,071
その他資産	464	324
貸倒引当金	△1	△1
固定資産	10,985	11,419
有形固定資産	9,730	10,207
建物及び構築物	2,500	3,100
機械装置及び運搬具	1,905	2,236
土地	4,403	4,385
建設仮勘定	649	202
その他	271	282
無形固定資産	49	53
投資その他の資産	1,205	1,158
投資有価証券	591	639
長期貸付金	1	1
その他	616	522
貸倒引当金	△4	△4
資産合計	19,863	19,848

POINT

積極的な設備投資による固定資産の増加

売上拡大を目指し、新分野、新商品開発のために設備投資を継続中です。

科目	第83期期末 平成23年3月31日現在	第84期期末 平成24年3月31日現在
負債の部		
流動負債	4,680	3,923
買掛金	884	856
短期借入金	1,538	906
未払費用	1,044	1,043
未払法人税等	462	469
引当金	500	468
その他	250	179
固定負債	2,390	2,142
退職給付引当金	946	876
その他	1,443	1,265
負債合計	7,071	6,065
純資産の部		
株主資本	12,651	13,450
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,308	3,308
利益剰余金	5,456	6,367
自己株式	△1,115	△1,226
その他の包括利益累計額	105	276
その他有価証券評価差額金	94	127
土地再評価差額金	859	1,021
為替換算調整勘定	△848	△872
少数株主持分	35	55
純資産合計	12,792	13,782
負債純資産合計	19,863	19,848

POINT

有利子負債の圧縮ならびに自己資本比率の増強

借入金の返済を進めるとともに、利益剰余金の増加により、自己資本比率は69.2%(前年比+5.0%改善)となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期期末 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	第84期期末 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	19,246	21,323
売上原価	13,404	14,965
売上総利益	5,842	6,357
販売費及び一般管理費	4,253	4,400
営業利益	1,589	1,957
営業外収益	196	220
営業外費用	185	124
経常利益	1,600	2,052
特別利益	—	49
特別損失	76	16
税金等調整前当期純利益	1,523	2,086
法人税、住民税及び事業税	560	749
法人税等調整額	△50	101
法人税等合計	510	850
少数株主損益調整前当期純利益	1,013	1,235
少数株主利益	5	23
当期純利益	1,007	1,212

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括 利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当期首残高	5,001	3,308	5,456	△1,115	12,651	105	35	12,792
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△309		△309			△309
当期純利益			1,212		1,212			1,212
自己株式の取得				△111	△111			△111
土地再評価差額金の取崩			7		7			7
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						170	20	190
連結会計年度中の変動額合計	—	—	910	△111	798	170	20	989
当期末残高	5,001	3,308	6,367	△1,226	13,450	276	55	13,782

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期期末 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	第84期期末 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,551	1,918
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,383	△1,590
財務活動によるキャッシュ・フロー	△839	△1,062
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	△2
現金及び現金同等物の増減額	△685	△737
現金及び現金同等物の期首残高	4,094	3,408
現金及び現金同等物の期末残高	3,408	2,670

POINT

堅実な営業キャッシュフローの積み上げ

税調前利益および減価償却費の積み上げにより、安定した営業キャッシュフローを確保しております。

投資キャッシュフローの増加

研究開発を目的とした積極的な設備投資により、投資キャッシュフローが増加しました。

個別財務諸表

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

個別貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期期末 平成23年3月31日現在	第84期期末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産	7,930	7,906
現金及び預金	2,180	2,211
受取手形・売掛金	3,837	4,175
棚卸資産	340	394
その他資産	1,573	1,125
貸倒引当金	△1	△1
固定資産	9,309	9,167
有形固定資産	5,819	5,907
建物及び構築物	899	1,237
機械装置及び運搬具	325	326
土地	4,144	4,127
建設仮勘定	361	79
その他	88	136
無形固定資産	16	30
投資その他の資産	3,473	3,230
投資有価証券	588	637
長期貸付金	869	683
その他	2,060	2,002
貸倒引当金	△44	△92
資産合計	17,239	17,074

(単位:百万円)

科目	第83期期末 平成23年3月31日現在	第84期期末 平成24年3月31日現在
負債の部		
流動負債	4,078	3,626
買掛金	1,468	1,331
短期借入金	1,400	900
未払費用	705	678
未払法人税等	223	398
引当金	220	210
その他	60	106
固定負債	1,632	1,426
退職給付引当金	199	165
その他	1,433	1,261
負債合計	5,711	5,052
純資産の部		
株主資本	10,574	10,873
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,308	3,308
利益剰余金	3,379	3,790
自己株式	△1,115	△1,226
評価・換算差額等	954	1,148
その他有価証券評価差額金	94	127
土地再評価差額金	859	1,021
純資産合計	11,528	12,021
負債純資産合計	17,239	17,074

個別損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第83期期末 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	第84期期末 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	17,593	19,380
売上原価	13,716	14,720
売上総利益	3,876	4,660
販売費及び一般管理費	3,052	3,276
営業利益	823	1,383
営業外収益	93	85
営業外費用	152	106
経常利益	764	1,362
特別利益	169	—
特別損失	67	64
税引前当期純利益	866	1,298
法人税、住民税及び事業税	286	539
法人税等調整額	△4	46
法人税等合計	282	585
当期純利益	584	712

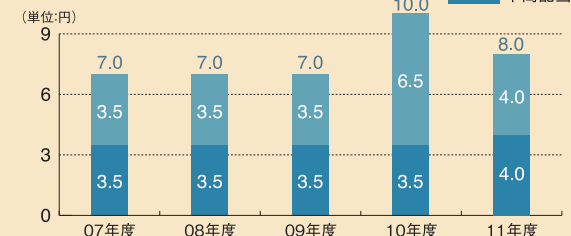
(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

期末配当金 1株当たり4円

当期の配当金は、中間配当金とあわせ、1株当たり8円とさせていただきます。

1. 期末配当金 1株当たり4円0銭
2. 支払対象者 2012年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 2012年6月8日

1株当たりの配当実績



※10年度は記念配当1株当たり3円を実施しました。

個別株主資本等変動計算書

当事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	5,001	3,308	3,379	△1,115	10,574	954	11,528
当期変動額							
剰余金の配当			△309		△309		△309
当期純利益			712		712		712
自己株式の取得				△111	△111		△111
土地再評価差額金の取崩			7		7		7
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(順額)						194	194
当期変動額合計	—	—	410	△111	299	194	493
当期末残高	5,001	3,308	3,790	△1,226	10,873	1,148	12,021

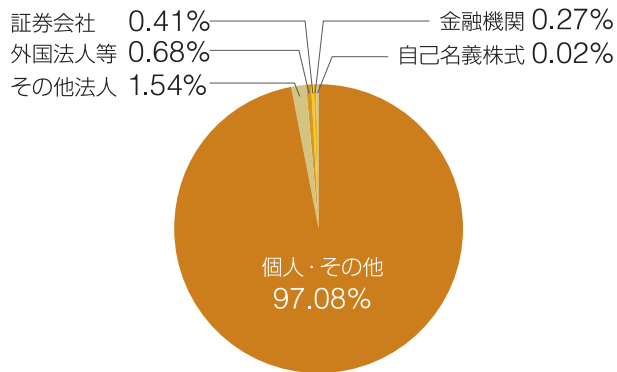
株式の状況

会社が発行する株式の総数	128,503,000株
発行済株式の総数	33,061,003株
株主数	4,148名

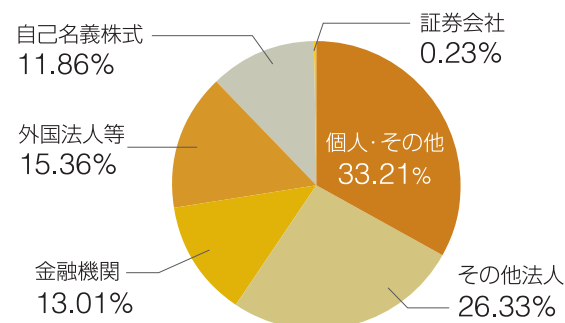
大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.1
ゴールドマンサックス インターナショナル	4,244	12.8
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
株式会社みなと銀行	925	2.7
指月協友持株会	849	2.5
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	638	1.9
株式会社ノーリツ	560	1.6
指月電機製作所自社株投資会	557	1.6
東京海上日動火災保険株式会社	383	1.1
日本生命保険相互会社	304	0.9

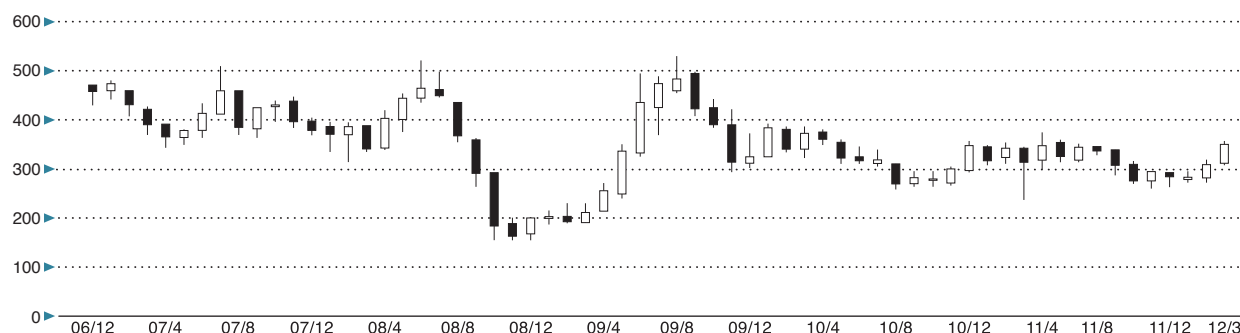
所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況



株価チャート



会社概要

商号 株式会社指月電機製作所
 英文名称 SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
 本店所在地 〒662-0867
 兵庫県西宮市大社町10番45号
 TEL:0798-74-5821
 ホームページ <http://www.shizuki.co.jp/>
 創業年月日 昭和14年3月10日
 設立年月日 昭和22年9月1日
 資本金 5,001,745,595円
 グループ人員数 1,349名
 主要取扱業務 ●コンデンサ及び関連機器・装置
 ●電力機器・装置
 ●情報機器・装置
 の製造販売
 営業拠点 ●東京支社
 ●東京支店/関西支店/中部支店
 ●札幌営業所/仙台営業所/日立営業所
 広島営業所/福岡営業所
 ●マレーシア連絡事務所/韓国連絡事務所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	490,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	200,000千円	100.0

販売・生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシツキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0

役員

取締役	※社外取締役
取締役会長	梶川 泰彦
取締役	木佐木 正文
取締役	川本 十七生
取締役	池田 義範※
取締役	増田 幹登※

執行役

代表執行役社長	梶川 泰彦
専務執行役	伊藤 薫
常務執行役	志方 正一
常務執行役	足達 信章
常務執行役	谷口 義裕
執行役	矢部 久博
執行役	小田 敦
執行役	山本 則彦
執行役	光谷 信雅

